



## 三木治先生のこと

著者	佐野 一男
雑誌名	仏語仏文学
巻	8
ページ	2-3
発行年	1975-12-10
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/00017540">http://hdl.handle.net/10112/00017540</a>

## 三木治先生のこと

佐 野 一 男

三木先生が来年3月定年になられるので、その記念論文を関大仏文の先生がたがみんな書こうということになっていました。ところがそのひとりであるわたくしは、この夏、頭もからだも調子が悪くて、筆がちっとも進まないうちに、しめきりの日が来てしまいました。そこで小方教授にお話ししましたら、感想のようなものを書いておくようにと言われましたので、こんな「うめぐさ」のようなものを書く次第です。

三木先生とは同じ旧制の中学校「神戸一中」で、わたくしは2年級下にいました。もう50年以上も昔のことになります。カーキ色の制服に巻ゲートルをつけ、昼飯は寒風の中でも運動場でお茶もなしに食べるといったような中学校でした。その後三木先生は三高、京大と秀才街道をすすまれましたが、関西大学につとめられた頃のことなどは、よく知りません。わたくしは昭和の20年代になって、関大に仏文科ができましたときに、非常勤講師として、三木先生にお目にかかりました。その頃は仏文の学生もすくなくて、いまの重本教授が2年生だったと思います。

三木先生は優秀な学生を育てて先生にし、また他校からも若いすぐれた先生がたを呼んで仏文科を盛大にしてゆかれ、お仕事の方も若い先生方を集めてあの和仏辞典を完成されるなどたいへんな努力をされています。大学院をつくるにも非常な尽力をされたと聞いていますが、とにかく関西大学仏文科のまったく大きな育ての親と言うべき方だと思います。

三木先生が胃潰瘍で入院されていると聞きましたので、8月の末近くお見舞いにあがりましたが、そのときは最悪の状態を脱して、お元気そうな笑顔が見られましたが、ぐあいのお悪い日もあると最近になって聞きました。来る10月19日には関西大学で仏文学会が催されますし、どうか一日も

早く元気をとりもどされて、学校へおもどりになることを心からお祈りいたします。(9月17日)

以上の手記を、わたくしは9月16日から17日にかけて書いたのですが、その9月17日に三木先生が胃潰瘍のために亡くなられたと聞きました。じつはわたくしも胃潰瘍の大手術をやってもらったあと元気を回復しましたし、あの最後にお目にかかった日の微笑がおだやかで美しくかったのを見たせいか、これはお元気になれるものと、心の底で思いこんでいたようです。びっくりしました。

先生の没後、去る10月19日には日本フランス語フランス文学会秋季大会が関西大学で盛大に催されましたが、これは先生の定年を記念する意味もある会だったので、御出席できなかつたことは非常に残念に思いました。せめて定年までは御元気でいてほしかったと思います。

このたび先生の追悼号を出されるにつき、つたない言葉を書きつらねました。

御冥福をお祈りいたします。(10月末日)

(本学教授)